

令和8年度第1回 各務原市男女が輝く都市づくり審議会議事要旨

日時 令和8年6月26日(金)午前10時00分から

場所 産業文化センター4階 第2学習室

<出席者>

竹内委員(会長)、高田委員(副会長)、尾関委員、堀田委員、下野委員、西澤委員、横山委員、栗本委員、奥村委員、川村委員、長縄委員、柴山委員、林委員
産業活力部 伊藤部長、横山課長、斉藤課長補佐、鷲崎主査、福田主査

<次第>

- 1 開会のことば
- 2 市長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 議事

(議題第1号)

○令和7年度事業報告について

(委員) 毎年、実績を見ていますが、推移が分からないので、推移が分かると良い。達成指標の目標値で具体的な数値が書かれている項目もあるが、「アップ」と書かれている項目もある。出来るだけ具体的な数値目標を掲げた方が良いと思う。

(事務局) プランの初年度ということがあったが、今後は推移が分かるようまとめていきたい。また、今回も評価をグラフ等で報告しようと検討したが、A 評価が非常に多かったため作成しなかった。事務局では評価の指標があいまいであり、担当課によって評価基準が違ふことが問題であると考えている。今後は A 評価、B 評価等の基準内容を変更していきたい。例えば、現在 A 評価は「十分できている」となっているが、今後は「昨年度と比べ改善した」など分かりやすい基準として、結果をグラフ化という形で提示していく。

(委員) 教え子の小学生の女の子で自分のことを「ぼく」という子がいるが、学校でからかわれると言っている。そういう時は先生に注意をして欲しいと思っているようである。LGBT とはまた違うが、つながっている問題ではないかと思っている。

(委員) 小学校でも性別的には女性だけど、僕ってという子はいる。学校ではそれを否定したりするのは違うと教えている。また、性に関わる話なども保健体育の授業などで伝えてい

る。

(委員) 資料を見ると計画に対して実施したことの評価はあるが、この取り組みによりどのような効果が出たのかが分からない。5 年後とかに意識調査を実施して、取り組みを進めてきた効果がみえるようになっていいと思う。

(委員) 実績をみると、評価が厳しめの課や、「引き続き実施する」となっている事業でも A や B の評価が混在している。評価をするための具体的で分かりやすい基準を示していくと良い。

(委員) この ABC とかの評価は誰が評価したものか。

(事務局) 評価基準を決めているのは、いきいき楽習課で、評価をしているのはそれぞれの担当課である。担当課の評価にばらつきがあると感じている。

(委員) 実績で気になったのは、10 ページの評価が一番低い項目で、担当課の実績で「依頼がなかったから行っていない」という記載があるが、考え方を直した方が良い。プランで取り組む事業内容は各部署が決めているものであり、その部署が主体的な取組により実現を目指していくものである。とはいえ、各部署も忙しいので、例えば今年度はここを重点的にやるとか、重点目標を立て、ここを注目して欲しいということがあると良いかと思う。重点目標は各部署で考えるのも大事だし、この会でこのポイントはもうちょっと上げて欲しいという意見を述べ検討していくのも良いと思う。

(事務局) 委員が指摘いただいた箇所を含め、実績について気になる項目は各担当課に確認をした。実際には実施している事業もあるのに、記載していないこともあったので、今後は各担当課から提出された内容をしっかりと確認して、間違っている部分は修正をしてから、委員に資料を送付する。

(委員) 実績について評価をしているが、具体的に成果としてどういうことが深まったかということが分からない。全体を要約した資料があると分かりやすい。

(議題第 2 号)

○令和 8 年度事業計画(案)について

(委員) 情報が膨大で、受け取る市民側も大変で、どこにどんな情報があるのかという分からない状態である。発信の規模が大きいので煩雑になるのは仕方がないが、生涯学習の情報誌が全戸配布ではなくなったり、広報紙が月 1 回となったり、回覧文書も少なくする方

向にあり、どのように情報をとったら良いのか、どこに情報があるのかが分かりづらい。そのため、せっかくの補助金の情報を知らない企業さんも多い。LINE による情報発信は良いと思うが、市からの LINE はたくさんあるとスクロールしないとみることが出来ない。ので、並行してみられると良い。こんなセミナーがあったら行きたいと思っている人はたくさんいると思うが、その人たちに情報が届かないのが問題である。

（事務局）情報の発信はとても難しいと感じている。あらためて課題として認識し、工夫していきたい。

（委員）実績の 7 ページに講座の参加者数が記載されていない項目があるが、人数とかは記載して欲しい。また、“教育相談保護者会の参加者数が減少している背景には、自分の子どもの現状や悩みを交流するのに抵抗がある傾向”と記載してあるが、私が開催している講演会では質問が多くある。参加者に聞くと、学校で懇談会とかが少なくなり、相談できる機会がないという話を聞いた。参加者が減少しているのは周知ができていないのだと思う。夏休み子ども講座もウェブで探そうと思ったがなかなか探せなかった。

（事務局）夏休み子ども講座を 50 講座ほど開催しており、まとめた冊子を作っているが、今は紙で配布するという形ではなく、学校のスマート連絡帳とかで情報を発信している。市のホームページについても分かりやすく作成し、情報を発信していきたい。

（委員）自治会で回覧板がまわってくるが読まない方もいて、その方に対してあらためて文章を持って説明に行くということもある。私もこの会議に参加しているから色々と情報を得られ、学ぶことが多い。

（委員）情報発信は、相手に伝わって、興味をもってもらい、検討して選ばれることが大切である。「いつものもしもキャラバン」という防災のイベントを開催しているが多くの方が来場する。このイベントは楽しみながら防災を学ぼうという目的で行っている。防災というのが前に出過ぎると来ない方も楽しみがあることで来てもらえて、結果として防災のことを考える機会となる。情報を発信することや、事業を評価することがゴールではなく、どうあるべきということに対しての評価が出来ていない。評価することがゴールになっているので、そういう部分を洗いなおして、丁寧に積み重ねていくことが大事である。

（委員）自治会でも結ネットというアプリを使って市と情報共有している。一部の自治体では、自治会長と会員との情報共有にも利用しているが、発信するには自治会でも管理者が 1 人必要となり難しいと感じる。しかし、紙ベースがなくなっている現状もあるので、このような媒体で発信していくことも必要であり課題であると感じている。

（委員）生涯学習講座の中で、父親の育児参加や男性の家事参加という項目があるが、料理

の講座に偏っている印象をうける。ベーシックな家事で、例えば親子で洗濯物をたたむとか、掃除などの講座があっても面白いのではないかと思う。また、定年退職した方などを対象とした講座も良い。

(事務局) 生涯学習講座については各ライフデザインセンターが主体的に実施している。市の方針に基づき企画しているので、本日の意見も伝えていく。

(委員) 講座で実施するのが難しいのであれば、男女共同参画の方で、みんなが思っていることを気軽に話し合う交流会みたいなものをやってもいいかと思う。自分だけが思っていることではないと分かったり、話をしたりすることで解決できることもある。ワークライフバランスセミナーについても、今後、内容ややり方を考えていく時期にあるかと思う。

(委員) 男女共同参画をテーマとした生涯学習講座では、若いお父さんが対象の講座が多いが、その年代は男女共同参画に理解があると思う。高齢者の方が理解されていない方が多いと思うのでそういう方を対象とした講座ができると良い。

(委員) 先ほどの防災の話ではないが、男女共同参画という話を前に出すほど、市民が引いていくということはあると思う。男女共同参画に興味のない方に話を聞いて欲しいというのが今年度を実施した交流会の目的である。女性が活躍する職場づくりセミナーでは、補助金の説明の後にアンコンシャスバイアス気づき促進交流会を実施した。他の企業の方と交流する中で、自分の会社の当たり前は他の会社では違うんだとか、様々な発見がありとても良い交流が出来た。委員の中でこういう集まりがあるので交流会をやって欲しいというのがあれば事務局に連絡して欲しい。

(委員) 年配の方を対象とした男女共同参画講座とするとなかなか人は集まらない。ネーミングが大事。例えば、定年後に妻と上手くやっていく方法とか内容を工夫すると人が集まるのではないかと思う。

(委員) 色々と課題があるが「まざっていない」ことが一番の課題であると思う。職場と家の往復しかない方は、職場の人以外とは一切まざっていない。今は自分たちで物事を選ぶ時代だから、選ばないと混ざらなくなる。先ほど話した防災のイベントで大切にしていることは、防災に興味のない人をどうやって防災という言葉と混ぜるのかということをやっている。それぞれの会社や市役所の課など、なかなか混ざらないのをどうやって混ぜていくかということをや丁寧にやっていく必要がある。

閉会